

# みどりの東北

Midori no Tohoku

vol. 87

東北森林管理局



初夏の栗駒山

## contents

### 平成23年度東北森林管理局重点取組事項

—— 特集1 | 企画調整室

### 東北地方太平洋沖地震大津波による海岸防災林の被害～再生の取り組み～

—— 特集2 | 治山課

### 屏風山防風保安林クリーンアップ作戦を実施

—— 美しい森林づくり | 津軽森林管理署金木支署

### 平糠イヌブナ植物群落保護林～北限のイヌブナ国指定天然記念物に～

—— 我が署の名所 | 岩手北部森林管理署



2011・国際森林年

東日本大震災から3ヶ月が経ち、徐々に復興の兆しが見え始めている東北地方。東北森林管理局における、大震災への対応と、今年度の重点取組事項について。



杭丸太の供給  
杭丸太用の原木を輸送(秋田県能代市)

仮設住宅用資材、復興用資材の安定供給の確保  
仮設住宅資材用の原木を杭丸太に換算して約48万本分を供給しました。  
今後も東北国有林の豊かな森林資源を、仮設住宅用資材、復興用資

① 東日本大震災への対応

(1) 機動的な木材の供給

① 仮設住宅用資材、復興用資材の安定供給の確保

仮設住宅資材用の原木を杭丸太に換算して約48万本分を供給しました。

今後も東北国有林の豊かな森林資源を、仮設住宅用資材、復興用資



平成23年度  
東北森林管理局重点取組事項

企画調整室

材の原木として安定的に供給します。

② 木材加工施設の被災により変化した木材需要構造に対応した供給の調整

この度の震災で、全国の国産材消費量の約3割を占める合板用木材加工施設が被害を受けるなど岩手・宮城県の沿岸部の木材加工施設に甚大な被害が出ました。

東北地域の需要状況を的確に監視しながら、木材加工施設の回復状況に合わせ弾力的に木材を供給します。

③ 計画的な木材供給と広域化の推進

被災地の復旧・復興状況に併せて計画的に木材の供給を図るとともに、管外にも販路拡大を図り広域化を

推進します。

(2) 被災地支援の積極的な推進

① 瓦礫の一時置き場、仮設住宅用地への国有林の提供

国有林を提供できる候補地を岩手・宮城両県の災害対策本部に情報提供しました。

宮城県・仙台市・石巻市に、瓦礫の一時置き場として約405haの国有林を無償貸付しています。

今後も、地方自治体からの要請に迅速に対応します。

② 地域雇用の確保に向けた機動的な事業の実施

被災地の復旧状況を勘案して、素材生産事業及び造林事業について機動的な事業の実施を通じて雇用を確保します。

(3) 津波で被災した海岸林や地震

により崩壊した山地の復旧に向けた取組

けた取組

宮城県(仙台市、石巻市、気仙沼市、名取市、岩沼市、東松島市、亘理町、山元町、七ヶ浜町)及び青森県(三沢市)の潮害防備保安林など(延長約36・4km、面積約635ha)が津波により流失しました。

青森県三沢市で約1000m、宮城県気仙沼市で約1600mの防潮流岸工が津波により倒壊しました。

地域の安全・安心を確保するため、学識経験者等の意見を踏まえ、地元関係機関と連携を図りながら海岸防災林や崩壊した山地の復旧対策を実施します。

(4) 被災した森林管理署、森林事務所の機能回復及び宿舍の整備

被災した森林管理署及び森林事



みどりの東北

② 森林・林業再生のための  
先導的活動の展開



津波により全壊した三陸北部署の庁舎  
(岩手県宮古市)

務所の庁舎は、10(支)署で19件。このうち、全壊は3署で7件でした。(全壊した庁舎)  
 ・三陸北部森林管理署：署庁舎、宮古森林事務所、山田森林事務所  
 ・三陸中部森林管理署：高田森林事務所、大槌森林事務所  
 ・宮城北部森林管理署：鮎川森林事務所、戸倉森林事務所  
 また、被災した宿舍(一般借受宿舍除く)は8署で25件の被害でした。このうち、全壊は三陸北部署で13件でした。

(1) 先進的・先導的な技術の普及  
と担い手の育成

① 航空レーザー計測による効率的な森林資源の把握  
 効率的に森林資源を把握するために、精度の高い森林に関する情報  
 が得られ、かつ目的に応じて加工が可能な航空レーザー計測技術の実用化  
 に向けて、計画、収穫、路網整備の各種事業で実証を行い、森林・林業分野に活用を推進します。

② コンテナ苗を活用した低コスト  
造林

コンテナ苗を活用した低コスト造林の実用化に向け、宮城県でクロマツ・スギのコンテナ苗を植栽しました。プロットを設置し調査を継続実施します。

本年度は植栽地を宮城県以外に岩手県・秋田県・山形県に拡大しました。スギ約3万4千本・カラマツ約3千本を植栽し調査を実施しました。

③ 国有林のフィールド・技術の提供  
(准フォレストラー研修等の開催)

フォレストラー等の育成のため、平成23年8月から「准フォレストラー研修」及び「林業専用道技術者研修」を国有林のフィールドを利用して実施し、森林・林業の再生に向けた人材育成を推進します。

(低コスト作業システムの推進)

低コスト作業システムの普及・定着に向けて、自ら実践するとともに、民有林関係者と連携を図りながら森林作業道に主眼をおいた低コスト作業システム現地検討会を国有林のフィールドを利用して東北局管内5県で開催します。

④ 「准フォレストラー」による民有林  
行政の支援

「准フォレストラー」(准フォレストラー研修を終了した職員)による市町村森林整備計画の策定支援など民有林行政をサポートします。

(2) 民国連携した効率的な木材生産の推進

① 「儲かる間伐」の取組推進  
 平成22年度から、民有林・国有林が連携し間伐箇所のみとまりを確保して路網や土場を共同利用するなど、連携した間伐や間伐材の販売を試行的に取組んでいます。

本年度はその実施状況を整理・分析し、儲かる間伐を拡大するための方策を検討し他地域へ普及推進します。

② 森林共同施業団地の設定

森林・林業再生プランの目標である木材自給率50%を達成するためには、民有林と連携した効率的な木

材供給体制の構築が不可欠です。このため、森林共同施業団地の設定を推進し、路網施設の共用など合理的な森林施業や大口ト化等に向けた先駆的な取組を推進しています。

今年度も引き続き、森林・林業再生プランの推進のモデルとなるべく、森林共同施業団地の設定増加など民・国一体となった取組を推進します。

(3) 公益的機能の持続的発揮

① 生物多様性の保全  
 【白神山地世界遺産地域の適切な保全管理】

昨年6月に白神山地世界遺産地域連絡会議の助言機関として設置された白神山地世界遺産地域科学委員会を運営し、環境省等の関係機関と連携を図りながら世界遺産地域の保全管理を推進します。また、白神山地を考える旬間の一環として白神山地の価値を再認識するためのシンポジウムを開催しました。

また、世界遺産地域等の保全管理に役立てるため、白神山地への来訪者にアンケートなどを実施しその実態を把握します。

平成7年から世界遺産地域内にモニタリング調査区を設けブナ林の動態変化を把握しました。今年度は調査区の整備や調査機器の充実に



# 特集 1

取組みます。

【保護林や緑の回廊のモニタリング調査や針交混交林化】

原生的な森林等の保護を目的とした「保護林」や保護林を繋ぐことで動植物の移動経路を確保する「緑の回廊」を適切に管理するため、長期的なモニタリング調査を実施しています。

また、昨年度実施した緑の回廊の抜伐り検討委員会の結果を踏まえて、「緑の回廊」の抜伐り方針の見直しを行い、効果的な針交混交林化を推進します。

【希少野生動植物の保護】

イヌワシ・クマタカ・クマガイチョウやセンキバナアツモリソウといった希少野生動植物を保護するため、巡視活動、調査のほか、森林整備を通じた猛禽類の採餌環境の整備等を実施しました。

【ニホンジカの対策】

岩手県中部においてニホンジカの生息域の拡大が懸念されるため、早池峰山周辺でニホンジカの生息状況やニホンジカによる希少植生への被害状況を把握するとともに専門家から意見を聴取し適切な対策を検討します。

② 森林吸収源対策の推進

間伐などの森林整備により、森林

吸収源対策を通じた地球温暖化防止を図るとともに、水源のかん養や土砂流出の防備、生物多様性の保全などの森林の機能を高め「活力のある森づくり」を推進します。

③ 松くい虫やナラ枯れ被害の拡大防止

松くい虫被害は、青森県を除く4県で被害があるものの、平成13年をピークに減少傾向です。しかし、昨年1月に青森県の蓬田村(民有林)のクロマツで、青森県初となる松くい虫被害が確認されました。

今年度も、青森県内に被害が拡大しないよう青森県等と連携を図り巡視を行い、早期発見・早期駆除に取り組みとともに、マツを除去した防除帯で植樹を実施します。

ナラ枯れ被害は、平成15年に山形県で発生以来、昨年岩手県内でも被害が発生し依然拡大傾向です。

このため、昨年度策定したナラ枯れ被害の防除対策方針に基づき、被害先端地域では被害木の駆除、被害のまん延地域(山形県)では重点的に防除を行うナラ林において、薬剤注入による予防と周辺被害木の駆除を実施し、民有林と連携して被害の拡大防止やナラ林の保全等に取り組んでいます。

また、昨年度に引き続き面的な防

除対策としての「合成フェロモン」による誘引捕殺(おとり木トラップ等)による防除を試験的に実施しました。

④ 地域の安全・安心を確保する 治山対策の展開

【岩手・宮城内陸地震災害の復旧】 平成20年6月に発生した地震により、東北地方の山間地域において甚大な被害を受けました。山地災害の復旧も順調に進んでおり、県道などのライフラインも復旧、住民は元の暮らしを取り戻しつつある状況です。

【安心・安全な山づくり】

平成22年に東北地方の各地で局地的な豪雨により山腹崩壊などが発生しました。

崩壊箇所に対しては、再度災害のおそれがあるなど緊急的な対応を要する箇所について災害関連緊急事業を実施するとともに今後も順次復旧対策を実施します。

【治山事業における木材の利用】

治山事業において木製工法を積極的に採用し木材利用を促進することにより、景観との調和を図るとともに、炭素の貯蔵に貢献しながら保安林機能の維持保全を図る治山対策を推進します。

## ③ 2011国際森林年に 関する取組

2011年(平成23年)は、国連が定めた国際森林年(The International Year of Forests)であり、我が国のテーマは「森を歩く」と決定しました。

東北森林管理局では、東北の豊かな森林を守り育てていくこと、また、そのために国民一人一人が具体的に行動することが重要であることについて、一人でも多くの地域の方々に理解を深めていただき、東北の森林・林業の再生につなげていくことを目的として、関係機関とも連携しながら、情報発信やイベントの開催などを積極的に推進します。また、職員自らが間伐ボランティア活動など森林とのきずなを深める取組を率先して実践します。



東日本大震災で発生した大津波によって、  
甚大な被害を受けた海岸防災林。  
一日でも早い復旧、復興へ向けて。



# 東北地方太平洋沖地震 大津波による海岸防災林の被害 ～再生の取り組み～

東北森林管理局治山課

**平**

成23年3月11日(金)14時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9の地震が発生し、宮城県栗原市で震度7、宮城県、福島県、茨城県、栃木県の4県28市町村で震度6強を観測しました。

国内観測史上最大の地震は、巨大な津波を引き起こし、沿岸地域の街をのみ込み各地に甚大な被害をもたらしました。

犠牲となられた多くの方々に謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また、地震と津波で大きな被害を受けた皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。

● **山地災害の情報収集**

東北森林管理局治山課では、この地震発生直後からヘリコプターの手配を行い、地震発生翌日の3月12日から岩手県・宮城県の奥羽山系及び沿岸地域において、ヘリコプターによる山地災害の情報収集に着手しました。その後、13日、19日とヘリコプターによる情報収集を行い、宮城県内国有林の海岸防災林(延長約36.4km、面積約635ha)が津波により壊滅的な被害を受けた状況、宮城県気仙沼市・東松島市における防潮堤等の被害、及び岩手県山田町の山火事の被害状況等を確認しました。

また、津波の被害を受けなかった青森県、秋田県、山形県においては、国有林防災ボランティアにより地上からの情報収集に着手し、青森県三沢市の海岸防潮堤の被害、山形県米沢市の山腹崩壊箇所等を確認しました。

● **津波により壊滅状態となった海岸防災林の調査**

地震発生直後のヘリコプターによる情報収集により海岸防災林の被害は確認できていましたが、津波による浸水が排水されなかったこと、瓦礫によりアクセス道路が確保できないこと、行方不明者の捜索により現地への立入りが容易でなかったこと等から現地調査にはなかなか着手することができませんでした。

結局、現地調査に着手したのは地震発生から11日が経過した3月22日、宮城県森林整備課と仙台森林管理署が共同で地上から仙台湾沿岸の海岸防災林の被害状況を確認しました。翌日の3月23日からは、森林総合研究所の専門家、林野庁の担当者、宮城県森林整備課及び東北森林管理局が共同で現地調査を行いました。

地上からの調査により、海岸防潮堤の倒壊・破損、地盤沈下による浸水、

海岸防災林の折損・倒壊・流失等の広い範囲において甚大な被害が発生していることを確認、国有林における被害状況については、次項の表1、表2、表3のとおりとなりました。



潮害防備保安林の被災(宮城県岩沼市)



ヘリコプターによる情報収集

# 特集 2



林野庁との合同現地調査



倒壊した防潮護岸工(宮城県気仙沼市)



防潮防備保安林の被災(宮城県仙台市)

地震及び津波発生により、海岸堤防の倒壊・破損、海岸防災林の滅失とあわせ、広範囲な地盤沈下により、宮城県や岩手県の沿岸地域では、大潮・降雨で市街地が冠水するなどの浸

## ●浸水被害軽減の取り組み

●表2 治山施設被害状況

県	市町村	種類	数量(Km)
宮城県	気仙沼市	防潮護岸工	1.60
	東松島市	防潮護岸工	0.20
青森県	三沢市	防潮護岸工	0.10
合計			1.90

●表3 林地被害状況

県	市町村	種類	数量(ha)
宮城県	登米市	山腹崩壊	0.30
	仙台市	山腹崩壊	0.30
秋田県	大館市	山腹崩壊	0.18
山形県	大蔵村	山腹崩壊	0.30
	戸沢村	山腹崩壊	0.05
合計			1.13

●表1 海岸防災林被害状況

県	市町村	延長(Km)	面積(ha)
宮城県	東松島市	4.6	166.88
	七ヶ浜町	0.9	4.89
	仙台市	8.5	186.46
	名取市	2.8	37.02
	岩沼市	5.0	116.65
	亶理町	2.5	19.33
	山元町	7.1	76.32
	気仙沼市	4.0	15.35
	石巻市	0.9	12.36
青森県	三沢市	0.1	0.10
合計		36.4	635.36

## 被害状況

●平成23年5月27日現在の

水被害が発生しました。

特に、国有林の防潮護岸が市街地を保全している宮城県気仙沼市大谷海岸においては、約70cmの地盤沈下とともに、防潮護岸工(治山施設)が倒壊、海岸防災林10haが流失するとともに、後背のJR気仙沼線(大谷海岸駅)、幹線道路、郵便局、市街地が津波により流失する被害が発生しています。

この地域の復旧を進めるためには、

浸水被害を軽減することが急務であり、防潮護岸工の応急復旧、地盤沈下が著しい箇所への土のう積み工を実施する工事に早急に着手し、浸水被害の軽減を図ることにしています。

## ●恒久復旧対策の検討

現在、国、県による「復興会議」、海岸省庁による「海岸における津波対策検討会」、林野庁による「東日本大震災に係わる海岸防災林の再生に関する検討会」等が開催されており、当局における海岸防災林復旧の恒久対策についても、これらの検討結果を踏まえて実施していくことになっています。

また、海岸防災林復旧の恒久対策を検討する基礎データとする目的で、東北学院大学宮城教授等の指導のもと、次の基礎的調査を実施してい

ます。

- ①宮城県沿岸域の地形に関する基礎地図情報(レーザープロファイラー)
- ②宮城県沿岸域の海岸林の被害状況調査

これらの調査については6月中旬に完了させる見込みであり、調査結果については、海岸防災林の再生に関する検討会等に情報提供するとともに、今後の海岸林の再造成等復旧計画立案の基礎資料とします。

## ●おわりに

海岸防災林が被災した地域では、飛砂・高潮や津波に対する防備機能が極端に低下していることから、市街地の復旧とあわせ、これらの機能回復を早急に図る必要があります。

海岸防災林の復旧にあたっては、地盤沈下による地下水位(塩水)の上昇等により森林再生が困難な状況等が予想され、森林が機能を発揮するまでは長い年月を要しますが、海岸防災林の再生に関する検討会の検討結果等を踏まえ、より確実に海岸防災林が再生できるよう取り組みます。

また、海岸防災林の再生についての地域の意向を踏まえるとともに、関係機関との連携を図り、復旧・復興に向け取り組んで参ります。





# 屏風山防風保安林 クリーンアップ作戦を実施

——津軽森林管理署 金木支署

5月31日(火)、金木支署管内の屏風山防風保安林である、出来島埋没林周辺の海岸において、約2kmにわたってクリーン作戦を実施しました。

当日はつがる市の協力を得て、森林ボランティア、津軽白神森林環境ふれあいセンター、森林技術センター、地域市民、当支署職員の総勢70名でお互いが協力して、不法投棄ゴミや漂着ゴミの回収活動を展開しました。

実施場所の不法投棄ゴミ等は、冷蔵庫・電話機・掃除機・古タイヤ・廃プラスチック・空き瓶・空き缶等、日常生活や業務上で発生する多種多様なゴミや海からの漂着ゴミが屏風山防風保安林内に散乱していました。

参加者は、海岸防風林をきれいにするよつと、埋まっているゴミを引き寄せたり、海から飛来してきたゴミを拾い集めたり、額に多く汗をかきながら懸命にゴミの撤去作業を行いました。

特に現地は深い砂地がほとんどであり、作業するにあたり歩きにくい場所と、日頃の運動不足も重なり、時間がたつにつれてペースダウンを余



回収したゴミ

儀なくされましたが、みんなが一丸となり作業は無事終了となりました。

当日撤去したゴミの量は、粗大ゴミや燃えないゴミを中心に4tトラックで2台分と、2tトラック1台分、軽トラック2台分となりましたが、この日撤去したゴミはすべてつがる市の廃棄物処理場で処分していただきました。

参加者一同は、今後も地元自治体、森林ボランティア巡視員等と連携を図りながら、美しい森林づくり、美しい海岸林に蘇えさせる活動により不法投棄防止のPR活動及び保安林の公益機能の保全に努めて行きます。



参加者一同



ゴミ拾いの様子

# 「森を歩く」 感動から、そして関心へ

秋田森林管理署湯沢支署 増田森林事務所

奥山 邦昌

Kuniaki Okuyama

**私**の勤務する増田森林事務所の所在する増田町は、「くらしっくロード」と称し、蔵をキーワードとした町づくりを展開していて、古い町並みに囲まれた趣のあるところです。しかもこの蔵は単なる蔵ではなく、住居や茶室をも兼ねており、生活の中にマッチした佇まいです。少し東へ行くと、桜の名所100選に認定された真人公園があり、お花見の季節になると、タイこぎ競争などで多くの観光客で賑わいを見せます。

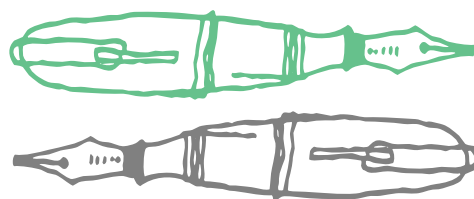
ただしこの公園にも、昨年からポツポツとナラ枯れの被害が出始めました。何とか食い止めようと、ただいま民・国一体になり作戦を展開中です。

食べ物では稲庭うどんが有名で、一度は蔵を見ながら地元で、本場の味を是非ご賞味してみてください。絶対に違うと思います。

併任となっている樺川森林事務所は、一部栗駒国定公園を管轄し、先に環境省から「星空日本一」の称号を受けた東成瀬村にあります。1627mの栗駒山と、1548mの焼石岳は共に日本の名山に認定されていて、焼石岳の秋田県側ルートは、高山植物の宝庫と言われ、初夏から秋にかけては多くの登山客が訪れます。特に八合目の焼石沼周辺の初夏は、数haに及ぶ広大な台地で、ミヤマキンバイ、ハクサンチドリ、リュウキンカ等々、それはそれは色とりどりの花々が咲き誇りまさに圧巻、百花繚乱の様を呈しています。ある時50歳代と思わしき(60歳代かも?)女性の方から「今度生まれてくる時は、絶



初夏の栗駒山



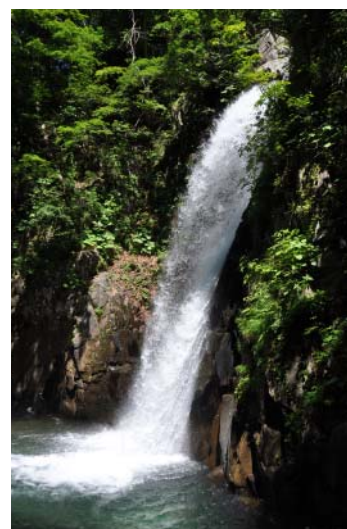
森林官からの手紙

対に営林署に入る」と言われ、仕事とはいえ、時にはこういう場面に遭遇できることも、まさに森林官冥利に尽きるというものです。

また、我が署のかくれた名所として広報(平成22年5月号)で紹介した釣りキチ三平のロケ地となった「天正の滝」も管轄しています。

昨今、登山者のマナーは以前より良くなってきていると思いますが、しかし、ほんの一部でしょうが高山植物の盗採など心ない人がいることも確かであり残念なことです。県及びNPOなど皆さんと連携しながら、啓蒙活動に力を入れているところです。

今年は国際森林年であり、テーマは「森を歩く」です。百聞は一見に如かず、登山をすれば必ず森と出会います。そして良い森と悪い森、自ずと区別もつきましよう。まずは感動から、そして関心へと目を向けてもらう、これが今の我々の任務のひとつかなと思っています。



天正の滝



漆蔵資料館



# information



みどりの東北

## welcome

新任者略歴紹介

※平成23年5月16日付



総務部長  
**富田幸一**  
Koichi Tomita  
(鹿児島県)

昭和49年4月／大阪局新見署採用  
平成14年12月／林野庁職員厚生課課長補佐  
平成18年4月／近中局鳥取署長  
平成22年4月／林野庁管理課管理官



計画部長  
**合田和弘**  
Kazuhiro Gouda  
(兵庫県)

昭和58年4月／農林水産省入省採用  
平成4年4月／青森局安代署長  
平成17年4月／林野庁整備課課長補佐  
平成21年4月／(独)森林総合研究所  
森林農地整備センター森林業務部長



職員厚生課長  
**高橋東**  
Azuma Takahashi  
(岩手県)

昭和57年4月／青森局管理課採用  
平成16年4月／東北局企画調整室監査官  
平成19年4月／東北局秋田署次長  
平成21年8月／東北局指導普及課長



指導普及課長  
**青山一郎**  
Ichiro Aoyama  
(栃木県)

平成元年4月／青森局計画課採用  
平成15年4月／環境省東北地区  
自然保護事務所保全調整専門官  
平成18年4月／東北局津軽白神森林環境保全  
ふれあいセンター生態系管理指導官  
平成20年4月／東北局朝日庄内  
森林環境保全ふれあいセンター所長



販売課長  
**角掛勇吉**  
Yukichi Tsunokake  
(岩手県)

昭和47年4月／青森局川尻署採用  
平成19年4月／東北局青森事務所副所長  
平成20年4月／東北局上小阿仁支署長  
平成22年2月／東北局遠野支署長



津軽白神森林環境保全  
ふれあいセンター所長  
**細川斉**  
Hitoshi Hosokawa  
(東京都)

昭和58年4月／青森局計画課採用  
平成13年4月／東北局青森分局国有林野  
管理課土地活用計画官  
平成17年4月／東北局森林整備課課長補佐  
平成20年4月／東北局宮城北部署次長



朝日庄内森林環境保全  
ふれあいセンター所長  
**伊藤博通**  
Hiromichi Ito  
(福島県)

平成元年4月／農林水産省入省採用  
平成15年4月／関東局東京分局指導普及課長  
平成16年4月／林野庁森林保全課課長補佐  
平成20年12月／林野庁経営課課長補佐



青森森林管理署長  
**馬場敏郎**  
Toshio Baba  
(神奈川県)

平成元年4月／農林水産省入省採用  
平成10年4月／帯広支局弟子屈署長  
平成19年4月／山梨県林業振興課長  
平成21年4月／林野庁整備課課長補佐



岩手南部森林管理署長  
**藤原豊宏**  
Toyohiro Fujihara  
(長野県)

昭和47年4月／長野局大町署採用  
平成13年1月／北海道局治山第四課長  
平成16年4月／林野庁管理課課長補佐  
平成21年4月／近中局石川署長



遠野支署長  
**佐々木欣雄**  
Yoshio Sasaki  
(秋田県)

昭和52年4月／秋田局造林課採用  
平成15年4月／東北局企画調整室室長補佐  
平成17年10月／東北局宮城北部署次長  
平成21年4月／東北局企画調整室監査官



上小阿仁支署長  
**佐藤智一**  
Tomokazu Sato  
(山形県)

平成9年4月／農林水産省入省採用  
平成17年4月／農林水産省大臣官房  
国際協力課海外技術協力官  
平成19年4月／長野県信州の木活用課技術幹  
平成21年4月／内閣府参事官補佐



秋田森林管理署長  
**奥羽屋忠法**  
Tadanori Ohsuyuya  
(秋田県)

昭和48年4月／秋田局造林課採用  
平成12年4月／東北局米代西部署次長  
平成16年4月／東北局企画調整室監査官  
平成20年4月／東北局販売課長



由利森林管理署長  
**須藤文雄**  
Fumio Suto  
(山形県)

昭和46年4月／青森局大船渡署採用  
平成11年12月／東北局仙台署次長  
平成19年4月／東北局金木支署長  
平成20年8月／東北局置賜署長



置賜森林管理署長  
**浪岡保男**  
Yasuo Namioka  
(福島県)

昭和57年4月／農林水産省入省採用  
平成16年4月／近中局岡山署長  
平成18年4月／関東局上越署長  
平成20年12月／(独)森林総合研究所  
育種企画課長



宮城山地災害  
復旧対策室長  
**川浪亜紀子**  
Akiko Kawanami  
(兵庫県)

平成2年4月／農林水産省入省採用  
平成14年8月／林野庁治山課課長補佐  
平成18年4月／近中局治山課長  
平成21年9月／中部局計画課長

